宇治市環境保全審議会議事要旨（公開用）

会議名	令和8年度第1回宇治市環境保全審議会
日　時	令和8年9月1日(火）14時00 分～16時00分
場　所	産業会館多目的ホール
出席者	委　員 松原　斎樹（会長）　京都府立大学生命環境科学研究科　特任教授 鳥居　里美（副会長）宇治市女性の会連絡協議会　本部役員 石倉　　研　　龍谷大学政策学部　准教授 居原田　晃司　　宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議　会長 今井　義仁　　（一社）宇治久世医師会　理事 魚住　智子　　（公財）宇治市公園公社　宇治市植物公園　園長 江口　淳司　　京都やましろ農業協同組合　理事 岸本　幸三　　宇治市森林組合　監事 久米　　雅　　京都文教短期大学幼児教育学科　教授 古島　健次　　宇治公衆衛生協会　会長 沢木　万理子　　（公社）宇治市観光協会　係長 中川　晴雄　　宇治商工会議所　副会頭 中西　理恵　　京都府山城北保健所　技術次長兼環境課長 西川　康史　　宇治市議会産業・人権環境常任委員会　副委員長 松峯　　茂　　宇治市議会産業・人権環境常任委員会　委員長 計１５人 事務局 前田　貴徳　　人権環境部 部長 西川　　聡　　人権環境部 副部長 永池　孝二　　人権環境部環境企画課　課長 堀田　祐子　　人権環境部環境企画課　副課長 岡　　建志　　人権環境部環境企画課　係長 郷田　瑠美　　人権環境部環境企画課　主任 矢野　慎二　　人権環境部環境企画課　主任 計7人 傍聴者　２人（うち記者１人）

１　部長あいさつ
２　正副会長の互選
３　正副会長挨拶
４　報告事項
（１）宇治市第 3 次環境保全計画の取組状況の報告について
≪事務局より「宇治市第 3 次環境保全画の取組状況の報告について」を報告≫

【発言要旨】
（委員）
　評価指標項目に「市民満足度」とあり、アンケートで抽出されたとのことだが、どのような内容、聞き方をして満足度を評価されたのか。

（事務局）
資料１の 14～15 ページに、今回の指標の元とした市民アンケートの調査結果を記載している。市民アンケートでは 18 歳以上の市民から無作為抽出した 1,000 人を対象としている。調査方法は郵送またはＷＥＢで行った。満足度の項目はこのページにある通りで、満足・まあまあ満足・やや不満・不満の 4 段階評価をしている。

（委員）
どの段階のものを「満足」と評価されたのか。

（事務局）
満足・まあまあ満足を「満足」されているものとして評価した。

（委員）
満足度は客観視できないので、少し難しいなと思った。満足度は聞き方によっても回答が変わる。また、満足度が基準値を下回っているところもあるが、最後の総括評価が順調というのが、何故だろうという疑問が沸いた。満足度は、例えば回数を増やしてもらえたら、「満足する」という方もいるだろうし、目の前で子どもが参加している様子を見て、「子供が満足したと思いますか」と聞けば、「満足した」と答える方もいると思う。そのため、もう少し客観視できるような指標にならないかという感じがした。

（事務局）
当課において様々な取組を実施しているが、イベント等の参加者からいただく声と市民アンケートの声はなかなかイコールにならない場合があるなど、満足度を市民アンケートで計ることの難しさはある。計画の評価指標として、市民アンケートで抽出した市民の満足度を設定しているため、今後も市民アンケートによる進捗評価を行っていかざるをえないと考えている。ただ、我々としては色々な事業を行っているということを、１人でも多くの市民にご理解いただいた上で、市民アンケートの満足度を評価していることを示せるように、実施する事業も大切ではあるが、それをアピールしていくことにも今後力を入れていきたいと考えている。

（会長）
私自身も、大学の地域貢献型特別研究の関係で市民アンケートの集計などに関与させてもらったが、確かに意識調査の面をもう少し細かく見ていくという話と、環境施策の方は脱炭素がどれだけ進んだかということを、もう少し粒度を上げていかなければいけないと思う。宇治市だけには限らないのだが、今後の課題としてあるのではないかと思う。

（会長）
資料１の 5 ページに「断熱窓の導入状況の指標は低調」とあるが、市民の方がそういうことを知って補助金をもらって導入するという面もあるが、市内の事業者が自分たちの仕事としてどんどん情報を広めて売っている部分もある。後者の部分が少し弱いということではないか。

（事務局）
断熱窓の導入状況の指標が低調である部分について、広く市民の方に知っていただくためには市内の事業者への周知、ＰＲでご協力いただくということは必要なことだと考えている。その部分においては、これまでも大きい事業者にはお声掛けさせていただいているが、

より広げていくために今後周知の取組を強化していければと考えていきたいと思っている。

（会長）
家電量販店はたくさんの情報を上手く整理して伝えられているが、いわゆる町の電気屋さんなどはその辺が遅れている部分もあると思うので、市内の中小企業を支えるという意味でも、もう少しがんばっていただくといいと思う。

（事務局）
大きな家電量販店には色々と声掛けをさせていただき、問い合わせをたくさんいただいているが、中小企業にももう少しお声掛けできるような仕組みを考えていきたいと思う。

（委員）
資料を見ていると遮熱フィルムの取組もされているということで、将来的には遮熱フィルムの方も増やしていくのか。

（事務局）
増やしていければと思う。

（委員）
遮熱シートは反射してミラーになっている形だと思うが、これはガラスが割れても飛び散らないなどの効果があって大変よいと思う。小学校などの遮熱カーテンの取組が出ているので、そういうところから使われていくと思うが、面積が広くなると反射光の問題もある。教室の南側につける場合はそういった問題も出てくると思う。
また、先ほどの市民アンケートのことであるが、記述式の項目もあるのか。無記名のアンケートで、あとで細かいことを尋ねるのは無理なものなのか。ＡＢＣ、アイウエオか選択式なのか。記述式の中のニュアンスというか、何が言いたいかもう少し捉えられれば反応しやすい。また、達成していないところはあとで達成できるよう手法を変えて取り組むのか。

（事務局）
遮熱フィルムについては反射光の問題もあるがもっと勉強させてもらいながら、うまく普及ができるよう考えていきたい。
市民アンケートの設問については、基本的には満足、まあまあ満足などの選択式ではあるが、自由意見も求めている部分もあり意見を集約させてもらっている。また、市民は無記名で事業者は記名で行っている。

（委員）
今回の目標の達成率を見ると、基準値を下回っているところが多くあると思う。先ほどのご説明では、今年から数字で評価をされているということなので、今後も数値評価をされるのであれば、基準値を下回ったものについて、どういう対策を１年間行ったのか、その結果、数値が改善したのか、それとも現状維持なのかということも含めて、資料を出していただけると評価する方としてはありがたいと思う。

（事務局）
委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、検討させていただきたい。

（会長）
ただいまのご意見は重要だと思うので、積極的にお出しいただければと思う。

（委員）
最近、宇治市の業者が京都市伏見区で産業廃棄物の山を作っていて対応に困られているということがある。そうした山間部での廃棄物の不法投棄は日々出ていると思う。笠取などは範囲も広く、こういったことは目立たないところから進んでいく。パトロールなど初期の段階で見つけることなど、対応していただく体制が必要ではないかと思う。市民は気にしているのでよろしくお願いしたい。

（会長）
ただいまの質問は産業廃棄物の不法投棄が市内でもないかという意味であるか。

（委員）
京都市、宇治市、大津市、この３つ市境に跨る場所の、京都市側の方で、産業廃棄物処理の計画の話があると聞いているが現時点で進行している状況ではない。宇治市の山間地域においては、ごみの不法投棄パトロールの取り組みをしており、近年パトロールの成果かもわからないが、過去には道路脇への不法投棄が目立っていたが、最近はだいぶ減ってきている。
産業廃棄物の処分場建設の動きを踏まえ、山間地域では１つの任意団体ができており、情報交換しながら行政の方に情報提供するなど、一緒にストップに向けて取り組みを進めるというようなことは現在考えている。

（事務局）
パトロールは京都府が主体となって行っているが、宇治市も入らせていただく形で実施している。たくさん集まってしまう前に早期発見するというのは大変重要なことだと考えているので色々な取り組みを考えていきたいと思う。

（２）2023（令和 5）年度の宇治市域の温室効果ガス排出状況について」
≪事務局より「2023（令和 5）年度の宇治市域の温室効果ガス排出状況について」を報告≫

【発言要旨】
（会長）
資料 3 ページの途中から排出係数を考慮してという話があったが、2 ページの図の 2 についても全て排出係数を考慮したものか。

（事務局）
排出係数を考慮したものとなっている。

（会長）
温暖化対策実行計画でいうと事務事業編にあたると思うが、宇治市の電力については排出係数を低いものにするという目標があるのか。再エネ１００％にするとお金がかかると思うが、宇治市として打ち出し方があるのか。

（事務局）
検討事項としては考えさせてもらっている、具体的に導入するというところまでは至ってないのが現状である。

（会長）
温室効果ガス排出量の推移を見ると、2020 年度からあまり減っていない。コロナ禍の兼ね合いで読み取りは難しいと思うが、今後の見通しなどをどのように考えておられるのか。コロナ禍で一時期減っているが、その後リバウンド的に 2021 年度、2022 年度に増えている。2020 年度自体も増えている。その辺りちょっと上がり方が早いように見えた。

（事務局）
コロナ禍の影響、コロナ明け、コロナ以降の影響というのも数字に表れている状況があるという風には考えているが、この数値に出ている通り、各家庭での取り組みが重要だと認識している。さらに民生業務部門、先ほども少し出てきたが、市内の中小の小売店などへの巻き込む力がまだ取り組みとして足りていないと考えており、今後、その部分について、これまでから取り組んでいるところではあるが、改めて、しっかりと取り組む必要があると考えている。

（委員）
行政、市民、事業者と一緒に、温暖化防止の活動をさせていただいている。最近ちょっと力を入れさせてもらっているのが、宇治市で実施されているエコ・アクション・ポイント。こちらの方を市民の人に認知してもらおうといろいろ頑張っているのだが、発信力がないのが今の課題であり、今日は大学の先生が来られているので、もしも大学の先生のゼミ生とか、一緒に何か協力していただいて、若者たちのＳＮＳの発信力をお借りできないかなというのは思っている。

（会長）
エコ・アクション・ポイントについては、他の自治体の方でも内容を見て感じたことがあって、例えば、太陽光パネルをつけると 1000 ポイントとか。例えば毎日何かすることがポイントになれば 1 ポイントずつでも毎日見るが、太陽光パネルは年に何回も設置しないので、一過性のもので大きいものをつけるだけではなく、毎日何かこういう行動をしたら２ポイント、3 ポイントつくなど、そういったところが今のエコ・アクション・ポイントの場合あまり多くないのではないかと思うがどうか。

（事務局）
エコ・アクション・ポイントでは、昨年から各スーパーで、例えば発泡トレー、ペットボトル、牛乳パックとかを、スーパーに置かれている回収箱に出されたときにポイント付けるように、各スーパーにご協力いただいて、ＱＲコードを設置させていただいている。昨年末から今年度にかけてテコ入れをしているところで、これまでであれば、例えば、月に 20～30 人の増加だったが、今年 4 月からは、月 100 人以上の方に登録をいただいている。今年度初めから順調に、順調といってもまだ 3000 人程度ではあるが徐々に増えているという状況である。

（委員）
私は熱医学といって熱中症の予防が専門である。予防する際にエアコンを使ってくださいという話をするが、そうすると間違いなくＣＯ2 が多く排出される。近年エアコンの性能が上がって値上げするという形で、この熱中症の予防でエアコンをつけるというのが一番効果的ではあると思うが、環境という面には逆風になってしまうというところを懸念している。データを見ると、エネルギー消費量では、民生家庭部門の減少率が低いというところを見ると、なかなか家庭に対してどう減らしていくかというのは今後課題になってくる。減少率に

関しては、人口もちょっと減っている。それとは関係ないと思っていいか。それともこの減少率の幅が人口の減少とリンクしているというところもあるのか。

（事務局）
　人口自体が減っている状況ではあるが世帯数自体は減っていない。あくまで活動量という形になってくるので、すぐそこでリンクするものではないと考えている。

（会長）
　先ほど委員がおっしゃった、学生さんを連れてとか学生さんにＳＮＳ発信していただいてとかその辺りのサポートなど、何かecoットト宇治さんとの協力できること等があれば検討してもらえたらと思う。

（委員）
　現在、熱中症予防で啓発ポスターを、宇治市内の商店で配布したり、ＳＮＳで京都文教大学の名前を使って配信したりしているので、ご相談次第では、ありうる話なのかなと思って聞かせていただいた。

（会長）
　ぜひ交流を深めていただけると非常にいいのではないかと思うがどうか。

（委員）
　私のゼミ生にも宇治市出身の学生がいるので、何か協力できることがあればぜひ協力したいし、情報提供いただけたらありがたい。先ほどの学生とのコラボレーションについては、何か協力できるところはあるかなと思っている。

（会長）
　植物公園での取組やご自身の経験からご発言をお願いしたい。

（委員）
　当園では、照明のＬＥＤ化や、古紙のリサイクル等を事務所では取組をしているが、それ以外にやはり一番大きな問題としては、植物を預かっているというところである。植物というのは、CO2 を吸収するという役割もあるので、大事な役割であると思っている。もう１つは、当園で今一番問題になっている植物残渣といわれるものである。植物はどんどん成長していく。そうすると剪定をしたり、ひどいときは伐採したりする状況になる。それを何とか活用できないかということで、チップ化して細かく砕いて堆肥化してそれを再利用するというような取り組みを進めてきている。地道にしているが、まだ堆肥としては、植物の土壌改良には全然足りないので、外部の城南衛生管理組合の剪定枝チップをいただいたり、外部と連携をとりながら活動をしているというところである。もう１つ先ほど会長のおっしゃったグリーンカーテンであるが、今まだ温室前でグリーンカーテンを作っており、環境企画課の講習会の方に参加させていただいて、皆さんたくさん作ればいいなという風に聞いていて、植物が増えればいいなというふうに思っている。ただ問題としては、地球温暖化による気候変動の中で、植物が育たないという問題も出てきている。講習会を振り返って、「ゴーヤが夏できませんでした」、「お花が咲きませんでした」とか、温暖化によって植物が育っていく環境にも影響を受けているというのは改めて実感しているところである。それに対して我々がどこまで対応できるのか分からないが、何とか植物を使って、温暖化を少しでも止めるようなことができればいいなと思って活動をしている。

（会長）
　今の植物残渣をチップ化してという話であるが、それ何か実際に商業化したりとかそういうあたりまではまだ進んでないのか。

（委員）
　全部というわけにはいかないが、植物の剪定枝を細かく砕いて、堆肥に１つは使っているということと、あともう１つは、植物公園の中の樹林にウッドチップを撒いて小道を作ってそこを歩いてもらおうというような企画をしている。ウッドチップを敷くことによって、土が豊かになっていき、雑草の発生を抑える、そういったことにも活用できるかなというふうに思っている。あともう１つはクビアカツヤカミキリの影響である。先日井手町でも発生が認められたということで、京都府内の約半分の市町村の中で、クビアカツヤカミキリ、特定外来生物が発生しているという状況である。幸いまだ宇治市はまだ発生していないのだが、近いところにきているので、時間の問題かというふうに思っている。改めて、特定外来生物に関する知識を、市民の皆さんにも普及できるように、植物公園としても協力したいと思っているので、ぜひよろしくお願いしたい。

（会長）
　クビアカツヤカミキリは、福知山市で１年半ほど前にすごい大騒ぎになって、それからずっと広がっていってしまったのだが。私も非常に自治体との連携が大事だと思っている。さきほどチップ化のことをご質問したのは、宇治市の業者さんで剪定枝をバイオマスエネルギーとして燃料に使うみたいなことを商業的に考えていらっしゃるところがあって、そういう情報を拾いたいと思った次第だった。

（会長）
　よろしければ、木材利用の観点からご経験をご発言いただければと思う。

（委員）
　森林組合では、今年春に開校された西小倉学園に府内産の木材を使っていただいたりとか、あと宇治の食堂のテーブルと椅子に府内産木材を使っていただいたりしている。今、宇治市の市有林が天ケ瀬ダムの東側にあり、その間伐事業を森林組合が請負っており、そこで切り出された木材を建築材として使っていただいており、そのような取組みを今現在行っている。あとは健全な森づくりということで、組合員さんの山の間伐を進めるなど豊かな森を目指しての取り組みが森林組合の主な事業になっている。

（会長）
　先日、ＮＨＫのクローズアップ現代の木材ルネッサンスでもやっていたが、利用の方は進んでいるけれど、山側の需要とうまくかみ合わないということをやっていた。いわゆる地産地消、宇治市内で木材を切り出しと利用がつながると、輸送のエネルギー量が少ないし、どんどん進むといいのではないかと感じている。今現在は市内の工務店さんと森林組合さんが連携するような動きは特にないのか。

（委員）
　今そこまでの取組は無い。市内にいくつも工務店さんがあるが、そういった方々とマッチング、うまいこといけばいいのだが。今一番の問題は先代さんが所有されている山が後継者につながっていないということが大きな問題であって、今相続された方の意向がどういうものなのか、その辺も突き詰めていく必要があると考えている。

（会長）
林業の方はまた別の部署になると思うが、庁舎の中でもいろいろ連携していただければと思う。

（会長）
報告に直結しなくても、色々環境のことに関して、ご発言いただければ。

（委員）
また明日明後日くらいに大きな雨が降ると予想されており、宇治も元々巨椋池があったぐらいであるし堤防も切れたことがあったが、非常時に自治体で被災されたごみの焼却体制について心配している。非常時の場合、想定以上のごみが出てくると思うが、近くの市町と連携して処理するなどの対応は考えられているか。

（事務局）
宇治市においては災害廃棄物処理計画を策定しており、その中で災害時、地震であれば広範囲でたくさん廃棄物が出てくるという状況になる。能登地方で地震が起こった時も、まち美化推進課から廃棄物の処理について職員派遣をさせてもらった中で、そのときに情報を色々いただきながら、もし宇治市で災害が起こった時に、どういう対応ができるかというのを考えているところである。宇治市の廃棄物の処理については、城南管理組合が山城の 3 市 3 町で構成しているが、こちらの方で災害時の最終処分については、まさに 3 市 3 町協力しながら、量によっては、例えば乙訓の方に、衛生管理組合もあるので、そういったところと協力しながら非常時に対応ができるように日頃から連携をとっている状況である。

（会長）
先ほどの猛暑の話もあったが、熱中症の救急搬送がずいぶん増えていると思うが、ご専門の立場から現在の気候変動とか皆さんの健康とか何か感じられていることについてご発言お願いしたい。

（委員）
ここ数年、明らかに夏場の気温が上がりすぎているというのがある。救急搬送される数も明らかに増えていると思う。しかし、それを防ごうとすると、結局外に出ない、エアコンを使ってもらうということになる。ＣＯ２排出削減とは逆ということにはなるがそうせざるを得ず難しいところではある。

（委員）
昨年度は 6 月下旬に、一気に気温が 5℃以上上がり、救急搬送者数が増えている。今年度はそれが 7 月だったが、昨年度に比べると 1 ヶ月遅れているので、それを考えると暑熱順化が 1 ヶ月遅れるということなので、今頃ようやく、そんなにスポーツをしてない方とか日頃外に出てない人の暑熱順化が完了しているという感じなので、今年はおそらく去年よりも熱中症搬送者が多いのではないかと思う。昨年度、実は宇治市は、一昨年度と比べると減っている。おそらく今年度まだ増えるのではないかと思うので、気温が一気に上がるというような予報が出たときに、宇治市で、そういった啓発をしていただけると宇治市の中で注意喚起が徹底されると思うのでよろしくお願いしたい。

（会長）
健康福祉という意味では、市長がまさにそういうご専門であるが、長野県松本市で一番進

んでいるインターバル走法。三分間速足で歩いて三分間ゆっくり歩いてというような訓練を、5 月ぐらいからしておくと、暑熱順化が早くなるとか。環境企画課と健康福祉部署が連携して取り組んでいただくといいかと思う。

（事務局）
熱中症警戒アラート出た際には宇治市のホームページでも周知させていただくという取り組みは、現在も行っているところではあるが、それ以外でも熱中症警戒アラートが出てないから暑くないわけではなくて、出ていない日であってもかなりの暑い日、気温が結果的には上がってしまう日もあると思うので、わかりやすく効果的な周知方法について考えていきたい。また熱中症対策については、庁内の関係課を集めて、例えば健康づくり推進課とも協働させてもらい色々検討させていただいている。本日いただいたご意見も踏まえて、次年度以降どのような取り組みができるのか検討を進めていきたい。

（委員）
クールスポットという取り組みをされておられたかと思うが、当園の方も、もちろん参加させていただいて、涼みにきてもらえたらいいなと思ったが、なかなか来てもらえないような状況ではあった。このクールスポットの取り組みの結果というのは、どのような感じだったか、お伺いできればと思う。

（事務局）
正確な利用者数というのは把握していないが、クールスポットの利用はエコ・アクション・ポイントの付与対象にしておりそのポイント付与の数字は出ている。まず、今年度で言うと 6 月、7 月と 7 月時点で、2,156 回、クールスポットのポイントを取得されており、昨年 6 月、7 月が 1,400 件弱となっている。先ほど申し上げたようにエコ・アクション・ポイント自体の登録者数も増えている状況の中で、ポイント付与実績でいうと利用回数が増えているような状況ではある。

5　その他
≪事務局より議事録の作成とホームページでの公表について報告≫

6　閉会